

令和6年度 第1回磐田市障害者施策推進協議会 会議録

【日 時】 令和6年8月23日(金)午後1時30分～午後2時30分

【会 場】 磐田市総合健康福祉会館(iプラザ)2階 ふれあい交流室1

【出欠席】

協議会委員(名簿順)

出席：鈴木眞喜子、中村千晶、高橋隆代、吉村強、沖山均、鈴木 敏弘、乗松宏幸、
小野田樹、松本一男、福田弘子、井川淳史、坂部亨、木村良輔、森下昌司

欠席：赤堀咲歩

事務局：佐原健康福祉部長、神谷福祉相談課長、丸尾、角、酒井
山中こども未来課長、青木

1. 開会
2. 部長あいさつ
3. 委嘱状交付
4. 協議事項
 - (1) 第6期磐田市障害福祉計画及び第2期磐田市障害児福祉計画の実績報告について
 - (2) 障害者地域生活支援拠点の整備について
5. 事務連絡
6. 閉会

会 長: それでは、次第4の協議事項(1)「第6期磐田市障害福祉計画及び第2期磐田市障害児福祉計画の実績報告について」事務局から説明をお願いします。

事 務 局: 事務局説明 (第6期磐田市障害福祉計画について説明)

会 長: 質問、御意見がありましたらお願いします。

委 員: 就労継続支援 A 型の施設数及び利用者が増えたが、どのような方針で認可しているのか。

事 務 局: 障害者福祉計画の中に施設数及び利用者数を盛り込んでいる。その計画範囲内であれば認可している。

会 長: 他に質問が無いようですので次に移ります。続いて、「磐田市障害児福祉計画の実績報告について」事務局から説明をお願いします。

事 務 局: 事務局説明 (第2期磐田市障害児福祉計画について説明)

会 長: 質問、御意見がありましたらお願いします。質問、御意見が無いようですので次に移ります。つづきまして、「障害者地域生活支援拠点の整備について」事務局から説明をお願いします。

事 務 局: 事務局説明(障害者地域生活支援拠点の整備について説明)

会 長: 質問、御意見がありましたらお願いします。

委 員: 基幹障害者相談支援センターはどこに設置するのか。

事 務 局: 既に磐田市障害者相談支援センターが基幹相談支援センター業務を担っている。

委 員: 緊急時の定義に介護者が急病、入院、死亡とあるが、介護者がいても、精神障害者の場合は目を離した隙に徘徊してしまい、事故に遭ってしまうこともある。介護者が元気な場合でも緊急時に該当する場合はあるのか。

事 務 局: 精神障害者で状態が悪い場合、医療が必要であれば入院等の措置を取る場合がある。それ以外であれば、拠点の利用登録をしておくことで、急に状態が悪くなったときに、どこかの施設で一時預かることができる。緊急時の安心を作っていく事業だと考えている。

委 員: 具体的な内容は今後の自立支援協議会で議論すると思うが、他市では事業所が交代制で受け入れを行っている例もある。そういった方法も検討してほしい。あくまで希望です。

委 員: 登録はどのように行うのか。

事 務 局: 障害福祉サービスを利用している方は、相談支援事業所に相談しながら登録書の作成を行い、市へ提出する。障害福祉サービスを利用していない方は基幹相談支援センターを通して相談支援事業所の紹介し、そこで登録書の作成を行う。

委 員: 移動支援事業と地域生活拠点の利用登録は関連があるのか。

事 務 局: 移動支援事業は障がい者の余暇活動等での移動に使うものであり、地域生活拠点の利用登録とは関連はない。

委 員: 利用登録をしていけば緊急時すぐに対応できると思うが、障害福祉サービスを利用していない方をどのように把握していくのか。予防的視点も含めた支援施策があるのか。

事 務 局: 障害福祉サービスを利用していない方の把握はなかなか難しい。拠点の整備を進めていく中で広報活動に努め、障がい者や介護者が将来のことを考えて登録を進めてもらいたいと考えている。登録することで、事前に安心感を持ってもらいたい。

委 員: 障害福祉サービスを利用していないような方は、自ら相談しないと思う。どのように対象者

を把握するのか、緊急的な状況に置かれる可能性の有無をどのように定義するのか、ということに違和感があった。

事務局：地域生活支援拠点の整備については周知していくが、良い方法があれば参考にさせてもらいたい。

委員：とにかく当事者同士がつながることが大切。行政でも障がい者団体でもつながっていないと潜在的な対象者を発掘することは難しい。実際、自治会単位であればどんな状況の人がどこにいるという情報は知っていることが多い。民生委員を含めて地域間活動の中で対象者を把握できるといいと思う。

会長：ほかに質問、御意見が無いようですので、本日の議事については以上とさせていただきます。もし全体を通して皆様から何かございましたらお願いします。

委員：問題提起だけなので回答は必要ない。障害福祉サービスの利用量はかなり増えている。そんな中で、市内の専門学校がなくなり、福祉を学ぶ場がなくなることで、若い世代の福祉人材確保に苦慮している。ハローワークからも福祉関係の有効求人倍率は他業種よりも高いと聞いている。人材不足によって使いたいサービスが使えないなど影響が出るのではと危惧している。

会長：本日予定されている協議事項がすべて終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

事務局：以上を持ちまして、令和6年度第1回磐田市障害者施策推進協議会を終了させていただきます。